

## 片山舒康：IPC 9 ワークショップ Algae in Education 報告

IPC 9 の中で標記のワークショップ（展示発表）を行いました。筆者はこれまでに日本の小・中学校の理科教育における藻類の扱いを調べ、もっと学校で藻類を扱うべきだなどという発表をしていたためか、このワークショップの日本側オーガナイザーを委嘱され、それを気軽に引き受けてしまったのです。

私がうかがったコンヴィナーの方々の原案では、藻類教育に関するワークショップを一つ行うことになっていました。しかし、計画立案の過程で日本側と外国側とでワークショップのとらえかたに異なりのあることが明らかとなり、こちらのワークショップは日本のみで企画・運営することになりました。私たちの企画では、主に日本の高校生の藻類に関する調査や研究の報告と高校理科教員による藻類教育の現状紹介を行うことにして、東京および近県の高校に参加を呼びかけることにしていました。ところが、実際に呼びかけてみると、IPC 9 の開催時期には高校総合文化祭やスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 研究発表会が開催されるなど、高校生あるいは高校教員の参加があまり期待できないことがわかったのです。それで困っていたところ、IPC 9 コンヴィナーの井上 勲さんと川井浩史さんがお知り合いの高校教員や施設および個人に声をかけてくださって、ようやく体裁を整えることができました。

ワークショップに参加して発表して下さった方々と発表テーマは以下の通りです（要旨掲載順、敬称略）。

兵庫県立いえしま自然体験センター：“ひょうご いえしま発”

子ども海辺の環境リポーターが創った世界にひとつだけの海辺の環境学習プログラム

前田夏穂（兵庫県中学生）：家島の海藻

岡島由佳（兵庫県中学生）：海藻に住む小さな生き物

橘 茉莉衣（兵庫県小学生）：海藻が教えてくれた海の環境

埼玉県立大宮高校（生徒4名）：ミドリムシの光走性

茨城県立竹園高校（生徒7名）：プレオドリナにおける無性生殖の形成過程

得田奈央子（神奈川県高校生）：ボルボックスの群体数の増加—金属イオン濃度との関係—

松下瑠璃・東京都新宿区立落合中学校生物部：校内の人工池と学校に隣接する自然公園—おとめ山公園—の自然池の水質調査

金井塚恭裕（東京都中学校教員）：生徒が調べたデータを用いた中学校理科における環境学習の一事例

片山舒康：高校生物で *Haematococcus pluvialis* を用いる「生物の環境応答」の生徒実験

神庭賢一（鳥取県小学校教員）：ピオトープ「あやめ池」における藻類相の変遷とその利用について

当日は 13:30 ~ 15:30 の 2 時間が割り当てられていましたが、始まる前から内外の参加者が会場を訪れてくださり、さらに実際のワークショップの間は満員の盛況となりました。内外の参加者は、特に小・中・高校生の発表を興味深く聴き、たくさん質問や助言をしてくださいました（写真）。児童や生徒は、発表原稿を一生懸命に覚えたそうですが、本番では原稿そっちのけで必死になって説明をしていました。

ワークショップ終了後には、多数の参加者の集う休憩室で Prof. John J. Bolton 国際藻類学会会長から全発表者に表彰状が手渡され、研究内容と発表がすばらしかったとお褒めの言葉がありました。また、堀口健雄日本藻類学会会長から記念品が贈られました。発表した児童・生徒からは、こういう機会にめぐり合えてよかった、英語での発表や質問への受け答えは大変だったけどためになった、などの感想がありました。

最近、各学会の全国大会では開催地周辺の学校の生徒に研究発表の機会を提供するのがはやっています。ところが、これまで、本学会の大会では中学生や高校生による調査・研究の発表は行われていません。流行を追いかけるわけではありませんが、未来の藻類研究者を育てるために、本学会でも中学生や高校生に藻類に関する調査や研究の結果を発表する場を設けてはどうでしょうか。

最後に、今回のワークショップに参加・発表して下さった皆さん、それを支援して下さった皆さん、そして当日発表者の発表に耳を傾けさまざまな質問や助言をして下さった方々に心からお礼を申し上げます。

（東京学芸大学・環境科学）



ワークショップの様子（撮影：金井塚恭裕）